

書評

金子章予編著（2024）『ホスピタリティ概論 ホスピタリティ研究・教育・産業の現状と未来』学文社／古閑博美「第11章 ホスピタリティ教育」pp.134～146

書評一

第11章のホスピタリティ教育には、ホスピタリティマインド醸成が幼児教育における資質育成の重要性として説かれている点が他の書籍に見られない特筆すべき点です。

長年、大学でキャリア教育に携わり、現在、園長として幼児教育の現場から徳育の大切さを説いてこられた古閑先生のご経験が活かされている内容だと思います。

久留米大学文学部情報社会学科 教授 江藤 智佐子

書評二

本書は12章163頁からなり、第1章～第10章は金子章予先生（西武文理大学教授、田柄幼稚園教育支援委員）の丹念な研究成果の才筆です。第11章は古閑博美先生（田柄幼稚園園長、元嘉悦大学教授）、第12章は富樫文予先生（西武文理大学准教授）の執筆です。肩書は発行時（2024年3月30日第1版第1刷）。

第1章・第2章では、「ホスピタリティ研究の基礎」として、現在に至るホスピタリティ研究の変遷と基礎知識が理論的かつわかりやすくまとめられています。そして、全10章の分かりやすさは、理解度が深まるような入念な構成、文献の解説が丁寧かつ的確、内容順に表や図を多用しまとめられていることに他なりません。ホスピタリティ概念の曖昧さを取り去った書籍は、他に類を見ないものです。一気に最後まで通読できました。

10章のうち、第3章からは産業に視点が置かれ、4章から10章まではそれぞれ産業別に「飲食・観光・宿泊・エンターテインメント・テーマパーク・ウェルネス・医療」に関する論説で構成されています。こうした産業別のホスピタリティにおいては、統計上、学問上、寛容的な用語など、使われているそれぞれの意味をないまぜにしない必要とその論拠も説かれています。それこそが、これまでのホスピタリティ研究の曖昧さを省くことにもつながっています。

第11章「ホスピタリティ教育」は、古閑先生のホスピタリティに関する言説として、ホスピタリティマナーがリスク管理として機能するだけでなく、幼児教育の分野においても必要であることが発展的に述べられています。「自然や他者との関係構築の手段と行動表現の根源にかかわること」として、幼児教育におけるホスピタリティは「行為と態度の良好な表れ（ホスピタリティ性）」と定義されます。また幼児教育は、「あたたかさ」という愛情や、地球規模での共感的理解に裏打ちされたホスピタリティ教育であるとする概念も示されています。それを人間賛歌としてのホスピタリティソサエティ（支え合い共に生きる社会）として構築するという、古閑先生の実践への熱量と共に読み進めました。

第12章は、富樫文予先生により「ホスピタリティ産業人材としての最低限のマナー」として、TPOと相手に応じた接客の基本が述べられています。こうした所作や言葉は、産

書評『ホスピタリティ概論』二件

業人材でなくとも、人として最低限かつ人に対する尊厳を示すための基本であるとも言えましょう。

最後に索引もあり、1章ごとに多様な文献資料が準備され、その活用の仕方まで、時間をかけ出版に至ったことが伝わります。本書は、それぞれの筆者らの研究への誠実さが感じられます。大学の学生に向けた教科書になるべき本自体が発する「愛」「あたたかさ」「誠実さ」も、『ホスピタリティ概論』ならではの読後感だと感じ入りました。

元せとうち観光専門職短期大学准教授、田柄幼稚園教育支援委員 堀田 明美